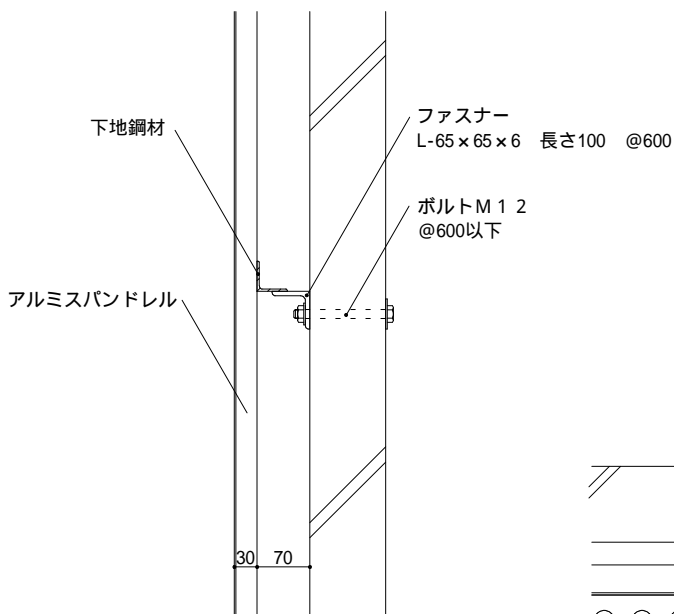


< 外壁参考ディテール >

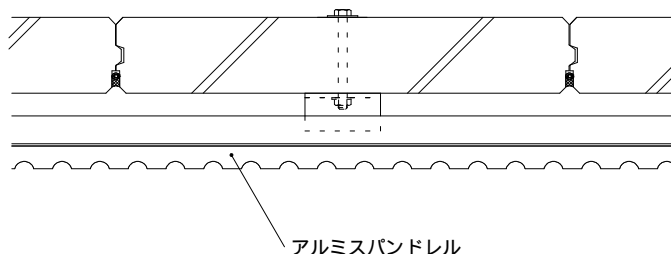
金属パネル仕上げ



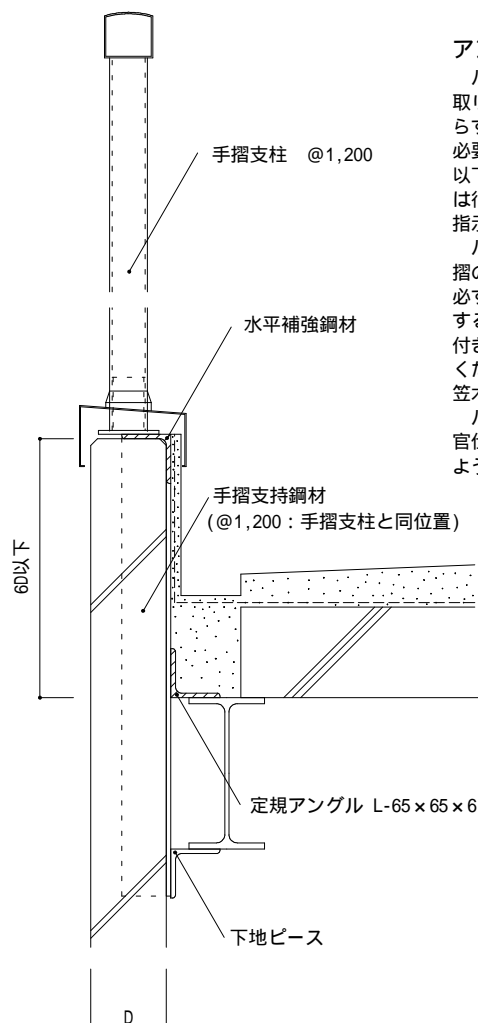
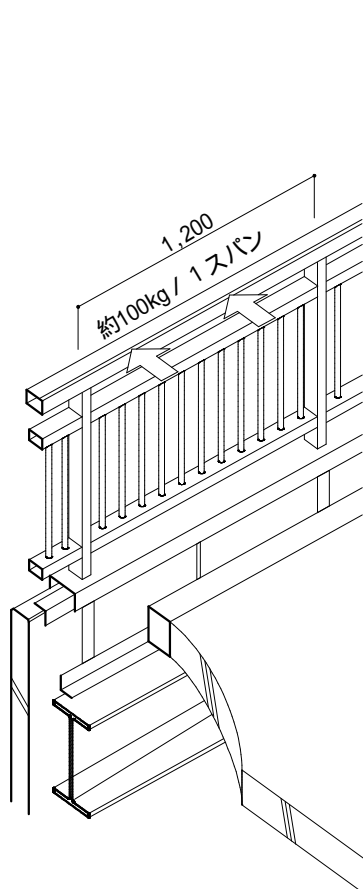
鋼板などの成形板を使用する場合は、一般的に胴縁を支持する下地を別途取り付けます。この場合、面内変形追従性確保のため、支持材回りにクリアランスを確保してください。

なお、取り付ける成形板が軽量で低層に使用する場合は、左図の例のようにパネルに貫通ボルトで取り付ける場合もあります。この場合、面内変形追従性確保のために、取り付けるボルトをパネル幅中央に位置させてください。

また、上記のどちらの場合においてもパネル(目地部を含む)および成形板取付け部の防水処理を行ってください。



手摺付き笠木



アングル等で補強する (手摺付き笠木協議会安全自主基準より)

バラベットなどの壁パネル頂部に、手摺付き笠木を取り付ける場合には、パネルのはね出し長さに関わらず、手摺付き笠木の取付け下地となる補強鋼材が必要です。一般に、ALC 工事ではパネル厚さの6倍以下の長さのバラベットの場合には補強鋼材の設置は行いません。手摺付き笠木のための下地の設置を指示する必要があります。

パネルに直接手摺付き笠木を取り付けることは、手摺の必要強度が確保できませんので大変危険です。必ず支持鋼材を設置するよう、設計図書などで指示するようにします。支持鋼材は安全確保のため手摺付き笠木の支柱(@1,200以下)と同じ位置に設けてください。手摺付き笠木の取付けに当たっては、笠木メーカーの仕様に基づき、確実に行ってください。

バラベット裏面には補強鋼材が露出しますので、左官仕上げなどを行い防水などに支障を来さないように配慮願います。